

2025 年度秋季一般選考 第 2 次試験（小論文）問題 出題の意図

憲法

問 1

集会の自由（憲法 21 条 1 項）を制約する規定の憲法適合性について、屋内集会と屋外集会の場合に、最高裁判所がいかなる判断を示しているかについて、基本的な知識を問うものである。

問 2

「性同一性障害者の性別の取扱いの変更に関する法律」の「生殖腺がないこと又は生殖腺の機能を永続的に欠く状態にあること」の要件を無効とした最高裁判例（2023 年 10 月 25 日）などを踏まえつつ、「性自認に従った法令上の性別の取扱いを受けるという法的利益」について、最高裁判所がいかなる判断を示しているかについて、基本的な知識を問うものである。

行政法

行政法（総論・救済法）において学ぶ知識の学習状況を確認すると同時に、行政手法及び行政救済の諸制度が、政策形成においてどのような位置付けにあるかにつき思考する能力の修得状況について問うものである。

行政学

図に基づいて、1G から 5G へと発展していくにつれて、主な機能が「音声のみ」「データ通信」「ネット利用」「ネット常時接続」「多数同時接続・低遅延・高速大容量」と変化してきていることを確認し、それが行政サービスや行政組織に、どのような影響を与えてきたか、事実を問うもの。解答としては、1G から 5G への変化を大きくとらえて、行政組織やサービスの大きな変遷を論じるものでも、短期の変化に焦点をおいて 3G から 4G、もしくは 4G から 5G への変化が与えた影響に焦点をおいてもよい。また、これからの Beyond 5G に関する点については、記述内容が「自律性」「拡張性」を満たすものであると同時に、「超低消費電力」「超安全性・信頼性」の要件を満たすものであることが求められる。特に、行政としては、後者の電力消費と安全性に配慮したものであることかどうか、重要な採点ポイントである。

公共政策

食料の安定供給を題材に、公共政策に係る資料読解力、課題発見力、政策立案能力及び文書作成能力を問うものである。